

## 事前質問内容

1. 事前配布資料について教えてください。
  - 1) 下記の期間、埋立をしていない理由を教えてください。  
H27年6月26日～8月3日  
H28年2月20日～4月12日  
H28年7月31日～9月8日
  - 2) 埋立量について教えてください。  
H28年5月の埋立量は125.37tと、他の月に比べ特に多い理由を教えてください。
2. 事前配布資料に毎年準備頂いている「グラフ資料」を添付して頂くと理解しやすいです。大変かと思いますが準備をお願いします。
  - 1) 浸出水の水質について教えてください。  
H27年8月6日の水質は環境基準を上回るほど急激に悪化しています。  
その理由を教えてください。  
BOD12（基準値10）、COD18（基準値10）、窒素含有量14（基準値10）  
電気伝導率695（前月148）、塩化物イオン3100（前月570）
  - 2) pHはH26年6月から環境基準8.6を上回っています。H28年度も10以上と高い月が多いのですがその理由を教えてください。またpHを環境基準以下にするためにかかる経費（薬品代等）を教えてください。
  - 3) 浸出水を環境基準以下に抑えるためにかかった薬品経費を年度別に教えてください。
3. H28年7月31日（日）に降った115mmの雨で、処分場からの放流水と河川が交わる都道215号の下流側河川域が深さ2m、長さ数十mにわたり土砂浸食しました。  
また9月22日（秋分の日）、1時間当たり57.5mmの降雨で浸食は更に広がりました。この時の処分場及び放流水、河川状況を、画像とビデオで説明して下さい。
  - 1) 土砂浸食した地層は、建設前の処分場直下と同じ水を含みやすい火山灰質粘土層です。今回の浸食は、処分場建設に伴う地盤改良で、これまで雨水が蓄えられていたはずの粘土層がなくなり、上流の雨水が下流域に集中して流れた影響ではありませんか。
  - 2) 黒岩秀之（前）参事は、運営協議会にて「（地盤改良したため）地下水は処分場を迂回して流動する。」と説明しました。その影響で下流域の土砂浸食が発生したのではないですか。
  - 3) 昨年の運営協議会で大雨に対する今後の対策について質問したところ「現在の地盤改良後の地下水状況は、生活環境調査の予測結果との矛盾は特段見られておらず、2015年7月の大雨によっても特段の問題が発生確認されたわけではない。」とのことでした。今回の河川下流域で土砂浸食が発生しました。この様なときは運営協議会委員に連絡を入れるべきではありませんか。
  - 4) 処分場を建設する前、当時の町長、町議会議長は末吉の旧水海山集落周辺について、「以前、三原山頂の開発を行った際に、水脈が変わり木が立ち枯れるなどの経験をしている。できれば手を付けない方がいいのではないかと指摘していました。今回の状況を踏まえ八丈町はどう考えているか。また土砂浸食した河川域の対応について教えてください。
  - 5) 大雨に対する今後の対策のためにも、地盤改良後の地下水状況を把握するための調査実施を再度お願いします。また、上流井戸底に置かれたバケツ内の水質調査は信頼性に欠けるので、より良い対応を再検討をお願いします。

4. 東京都に提出した実施設計書では地下水集配水施設の設置目的は、「地下水の水質（塩化物イオン濃度、電気伝導度、等）を監視することで遮水工の漏水が検知できるため、地下水を集水する。」ことでしたが、いつどのような変更で「地下水を監視することで遮水工（遮水シート等）の漏水を確認する」に変わったのかその経緯を教えてください。

1) 地下水が出ないのは、設計もしくは工事に問題があったのではありませんか。

5. 埋立地の冠水状況の写真資料「平成 27 年 7 月八丈処分場埋立状況」を委員全員に再配布をお願いします。また、平成 27 年度から現在までの処分場内に水が溜まっている日と、その日の一番深いところの水深を提示して下さい。また次の運営協議会より維持管理資料に追加して下さい。

1) 処分場内に降った雨の埋設集水管による目詰まりが徐々に起き、経年的に雨水の排除が出来にくくなるのが想定されます。降雨時における降雨量と場内に貯留される水の水深（水位）の変化に関するデータは記録してありますか。またその関係を教えてください。

2) 7 月 5 日～24 日まで、深いところでフレコンバック 2 個分の水位が溜まっているようですが、このようなことは今年度もありましたか。その期間を教えてください。

3) 昨年の運営協議会で「7 月の雨量程度であれば、この程度の水位を保持する。」との回答でしたが、この時の既往日降水量を教えてください。また、計画時の集配水設備の既往日降水量も教えてください。

4) 降雨時の表面流出率について、設計当初の予測計算値と、これまで数回の降雨時の実際の流出率（量）の実測値もしくは推定値の適合性について教えてください。

5) ある一般廃棄物処理施設にて「平成 10 年以前は、大雨時には、最終処分場内に雨水を溜める計画でよかったが、平成 10 年以降は、最終処分場内に雨水を溜めないような浸出水処理施設の規模が要求されている。」との会議録があります。

また、最終処分場の保有水（埋め立てられた廃棄物が保有する水分及び埋立地内に浸透した地表水。）を認めなくなった理由について、

「最終処分場は、埋立物を安定化し、害がない状態まで管理することを目的としている。廃棄物は空気とある程度の水に触れて分解作用によりきれいになるが、水に触れたままではこの分解作用が働かない。

国が最終処分場内の内部貯留を認めなくなった理由は、このような状況を最終処分場内に作らないようにするためである。（内部貯留とは、遮水シートの上に水が溜まるということである。これを認めないようになり、より安全になったということである。）」

一組、八丈町からは、このような説明をこれまで聞いたことありませんが、水海山処分場は他の処分場とは異なるのでしょうか。

6) 昨年 7 月、一ヶ月間水が溜まっている状態でも、「今回の状況は我々としては何ら問題はないという認識であった。」と言うことでしたが、現在も同じ考えですか。

7) 水海山の降水量を、休日でも「リアルタイム」に把握できるよう「自動記録計」に変更して頂きたい。またその際、処分場管理室、一組、八丈町、そして委員をはじめ誰でもすぐに危険を察知し対処できるようネット配信の設置を早急にして頂きたい。

6. 私達だけでは知識不足なので、次回の運営協議会より運営協議会委員として第三者の「処分場、地質、地盤、水質等」の専門家に加わって頂きたい。

7. より安全な施設運営を行うため、第三者委員会の設置を求めたい。